

平成 22 年 7 月 28 日

各 位

株式会社 大塚家具
代表取締役社長 大塚久美子
(JASDAQ・コード番号 8186)
問い合わせ先
執行役員広報部長 岩本修司
電話 03-5530-5566

平成 22 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 12 月期第 2 四半期累計期間(平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)について、平成 22 年 2 月 19 日付当社「平成 21 年 12 月期 決算短信(非連結)」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 22 年 12 月期 第 2 四半期累計期間(平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想(A)	30,385	296	350	191	円 銭 9.85
今回修正(B)	28,574	102	231	144	7.45
増減額(B-A)	△1,810	△193	△119	△46	—
増減率	△6.0%	△65.4%	△33.9%	△24.3%	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 21 年 12 月期第2四半期)	29,895	△403	△312	△708	△36.52

2. 修正理由

当第 2 四半期累計期間におけるわが国の経済は、景気の持ち直しが見られたものの依然として先行きが不透明な状況が続き、当社の事業と関連の深い住宅関連市場にも回復の兆しが表れましたが、家具需要への波及には一定期間を要することもあり、家具の販売環境は厳しい状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社では、営業・マーケティング戦略の見直しの一環として、ショールームの新しい運営方法の本格導入に向けた準備を進める一方、2月には掲載商品を従来の4倍程度に増やすなど、ウェブサイトの全面改修にも取り組みました。また、春の需要期に向けた「トータルインテリアフェア」や、買い替え需要喚起を狙った「お買い替えサポートフェア」を行うなど、積極的な販売促進に努めました。

その結果、第1四半期累計期間の店舗部門売上高は想定通りとなりましたが、通例年間売上で大きな割合を占める4月の店舗部門売上高が、例年になく天候不順などによる消費の低迷の影響を受けて前年同期比12.9%減と想定を下回り、5月・6月に同3.6%減までマイナス幅が縮小したものの、第2四半期累計期間の店舗部門売上高は278億48百万円(前年同期比4.6%減)となり、コントラクト案件を手掛ける建装部門売上高6億86百万円(前年同期比4.0%増)等を含めた全体の売上高は285億74百万円(前年同期比4.4%減、前回予想比6.0%減)となる見込みです。

売上総利益は、円高傾向を背景とした商品開発と販売政策による想定以上の売上原価率低下が売上高の未達を一定程度補い、155億24百万円(前年同期比1.3%減)となる見込みです。

販売費及び一般管理費は154億21百万円(前年同期比4.4%減)となり、広告宣伝費をはじめとする諸経費のコントロールに努めた結果、営業利益は前回予想比1億93百万円減の1億2百万円(前回予想比65.4%減)、経常利益は2億31百万円(前回予想比33.9%減)、四半期純利益は1億44百万円(前回予想比24.3%減)となる見込みです。

3. 今後の見通し

平成22年12月期通期業績予想につきましては、現在集計中であり、平成22年8月6日(金)の第2四半期決算発表時に合わせて公表する予定です。

(注) 第2四半期累計期間業績予想につきましては、本日時点での予測数値を記載しており、平成22年8月6日(金)に予定しております第2四半期決算発表時に確定値を公表いたします。

以 上